

### 3 学期終業式講話

おはようございます。本日をもちまして3学期、そして1年間を終了いたします。

2年生にとっては海外探究研究に行ってから、すごく早く時間が過ぎたのではないかと思います。運動部の方にとってはもう来月からインターハイ予選があり、2年間があつという間ではなかったでしょうか。その逆で悩み苦しんだ方にとっては長い1年間だったかと思えます。

そこで改めてキャリア教育について考えてみたいと思います。キャリア教育については戦後間もなくアメリカからキャリアガイダンスという言葉が輸入されましたが、当初これを進路指導と訳していました。本来は生涯を通じた生き方を考えることです。それが進路という言い方になりますと進学か就職か、そして大学か専門学校かといった範疇で考えがちです。それが将来を見通したものとして考えていくもので、自分の生き方の延長となります。

私自身は将来が見通せず、それでも両親からは大学へ行ってくれと頼まれていました。二人とも戦争や貧乏で満足に学校に行けなかったのも、自分たちの願望を子どもに託したといっているでしょう。それゆえ自分は大学に進みましたが、何になっていいものか皆目わかりません。

皆さんの中で勉強が嫌いで、高校を卒業したら働きたいと思っている人がいたら少々考えてほしいです。それは本当に働きたいものは何なのかが、はたして高校時代に決められるのかということです。家庭事情で2年間アルバイトをしてきたから働くことは大丈夫ですという人がいたら、そうとは言えないよと思います。自分自身も2年間ウエイターをやりました。これは小さな職場の人間関係にあり、仕事の内容もルーチンでしたから、一生をかけてやるとなる仕事とは別物と考えねばなりません。多くの人との交流と役割分担の中、人間関係はさらに複雑になります。

学生時代に、漬物屋で梱包の仕事をした時も、タイムカードで5分遅れたがために1時間分が無給となり、55分ただ働きをしたことがあり、これなども時間の厳しさを教わりはしましたが、もっとたくさん壁があります。

働くことと学生であることとの違いは、嫌なことをやらされるか否かということにたどりつきます。学生なら逃げるのができて、お金を得る以上、嫌なこともやらざるをえない時がくるからです。

私は大学に行っても何になっていいのかわかりませんでした。それでも資格は取ろうと思って学芸員というものをその一つとしました。博物館や美術館に勤める資格ですね。それでも少し余裕があると思えば社会科の教員免許を取ることとしました。それがその後の人生に生きてきます。

本日後ろにいらっしゃる先生方には申し訳ないですが、自分の場合大学3年生まで何になるか決まらず、最終的には教員でもやるか、教員しかないか、……これをでもしか教師と言いますが、そんな最終的な決断をしました。

ですから、教員になった頃はやめることばかり考えていました。

2校目の学校でようやくこの道でやっていこうかなと思ったのは、たまたま3年次でバイクを乗りまわしたり、煙草を吸ったりで謹慎したりした生徒が卒業後学校に来てくれて、そこで専門学校で作ったケーキをもってきてくれたことです。何をしてやったわけではないのですが、それがすごく嬉しくて、ああこの職業も捨てたもんじゃないなと思って今に至っています。

つまり仕事を生涯やっていくことはなかなか難しく、そのための選択としてもう少し大学等で考える時間を作ってもいいのかなという思いからなんです。

自分の娘も大学卒業後に就職した所で先輩のいじめにあって、1年で転職しましたが、その1年間ですごくその後の人生に影響を与えているという言い方をしていました。

そのくらい生涯働く所を探すということは難しいといえます。

そのためにも、日ごろから自分の適性を探すために友達の見解を聞いたりして、輪郭を作っていく必要があるかと思います。進路に迷ったら大学へと桐蔭横浜大学の先生がおっしゃった意味はそのあたりにあるのではないのでしょうか。

この春休みは自分探しの旅に出てください。4月に新入生を新たに迎えて、またお会いしましょう。

以上で校長講話とします。

(令和7年3月21日、終業式)